寅さん歩　その 12
東京の紅葉･黄葉　2022

寅さん歩（2022 年 12 月 16 日）で出会った東京の紅葉・黄葉です。

［上野恩賜公園　桜通り］

「桜通り」の「上野大佛」前の紅葉です。桜通りは桜の記憶ばかりでした。

［上野恩賜公園　不忍池］

「弁天堂」へ向かう「中の道」の紅葉・黄葉（写真下左）です。柳も黄葉（写真下右）しています。

不忍池「蓮池」近くの「不忍通り」沿いの紅葉・黄葉です。

［その他の紅葉・黄葉］

「浅草橋　銀杏岡八幡神社」の銀杏（写真下左）と「大塚駅北口駅前広場（愛称：イロノワヒロバ)」の黄葉（写真下右）です。白いモニュメントは夜にはカラフルに光ります。
ＪＲ山手線大塚駅は寅次郎の最寄駅です。

写真右は寅次郎のマンション前の紅葉です。10 年経過で見事な色づきです。

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。　寅次郎、現在はバーチャルウォーク　松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦しています。全行程約 600 里（約 2400ｋｍの長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。
2022 年 4 月 26 日、江戸深川（現在の江東区深川）を出発、2022 年 12 月 20 日象潟（きさがた）（現在の秋田県にかほ市）（江戸深川から 1154ｋｍ）に到着しました。
八柳さんのコースシートには、次の「奥の細道」本文の評釈と俳句の注釈が掲載されています。

これまで山水海陸の美景のある限りをことごとに見極めてきて、今や象潟に対し詩心を苦しめ悩ます次第となった。酒田の港から東北の方へ、山を越え、磯を伝い、砂浜を踏んで、その間十里、日もようやく傾きかけるころ、着いて見ると、汐風が砂を吹き上げ、雨は朦朧（もうろう）とうちぶって、鳥海の山も隠れてしまっている。

「象潟や　雨に西施が　ねぶの花」

（注釈：象潟は雨に朦朧とうちけぶり、その中からかの美人西施（せいし）の憂いに目をとざした悩ましげな俤（おもかげ）がそぞろに浮かんでくるような感じがされたが、西施の俤と見たは、実は岸べに茂るねむの花の雨にそぼぬれた姿であった。西施は中国四大美人の一人、呉を滅ぼしたといわれる）

17 日、天気は晴れ上がって象潟に舟を浮かべ、真っ先に能因島に舟を漕ぎよせて、能因法師が隠栖（いんせい）した遺跡（能因島）を尋ねた。芭蕉は象潟と松島と対比し、松島は笑うがごとし、象潟は恨むがごとしとも言っている。芭蕉が訪れた当時の象潟は松島のように海であったが、文化元年（1804）の象潟地震で海底が隆起して陸地化してしまった。現在でも 102 の小島が水田地帯に点在する。八柳さんは高校時代、田植えの季節に行ったことがあるそうで、当時の様子を偲ぶことが出来たそうだ。
能因法師(998～？)は平安時代の歌人。「世の中に　かくても経けり　きさかたの　あまの苫屋や　わが宿にし」　能因法師は象潟には行っていなかったという説もある。

西行法師(1118～1190)は平安時代の歌人。「きさかたの　桜は浪に　うづもれて　花の上ごとく　あまのつり舟」

芭蕉は本紀行における三つのピーク（松島・平泉・象潟）をこの旅の最大のめあてとしていた。
寅次郎も 2000 年 9 月の「第 8 回奥の細道　鳥海ツーデーマーチ」では東京駅から夜行

バスで象潟駅前下車、ＪＲで遊佐駅まで行き、ウォーキング大会に参加しました。
象潟駅前に「芭蕉北限の地」の看板があったのを覚えています。

毎日の運動不足対策や事情出例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。
歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野　寅次郎　拝